

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 採択教育プログラム 事業結果報告書

教育プログラムの名称 : 理論・実践融合型による教育学の研究者養成
 機 関 名 : 京都大学
 主たる研究科・専攻等 : 教育学研究科教育科学専攻
 取組実施担当者名 : 鈴木 晶子
 キーワード : 教育学、教科教育学、教育心理学、臨床心理学、教育社会学

1. 研究科・専攻の概要・目的

2. 教育プログラムの概要と特色

COE 21
 18 14

- 3
- ① **理論・実践融合型の学修の系統化**(テーマ研究、研究方法論探究、コースワーク、フィールドワークによる学修の仕上げとして、学位論文執筆段階の院生主導による「研究開発コロキウム」の開設など)
 - ② **国際レベルで活躍できる人材の育成**(外国人教員および外国語による講義・演習、海外提携大学や研究機関との国際プロジェクトへの院生の派遣、院生主体の国際セミナー、シンポジウムの定期的開催など)
 - ③ **学位取得プロセスの明確化**(冊子『博士学位論文作成要領』(52p)の見直し、臨床実践の成果報告書、海外でのフィールドワーク報告書も含む)

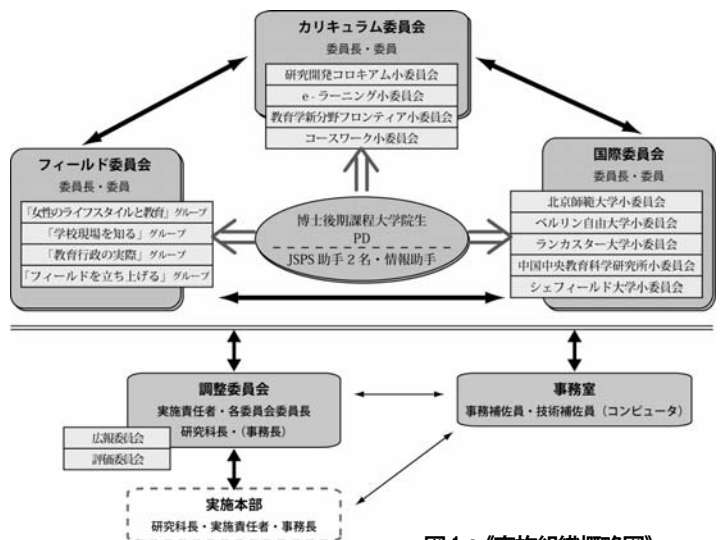


図1：《実施組織概略図》

18 101
 118 34 17 13
 4

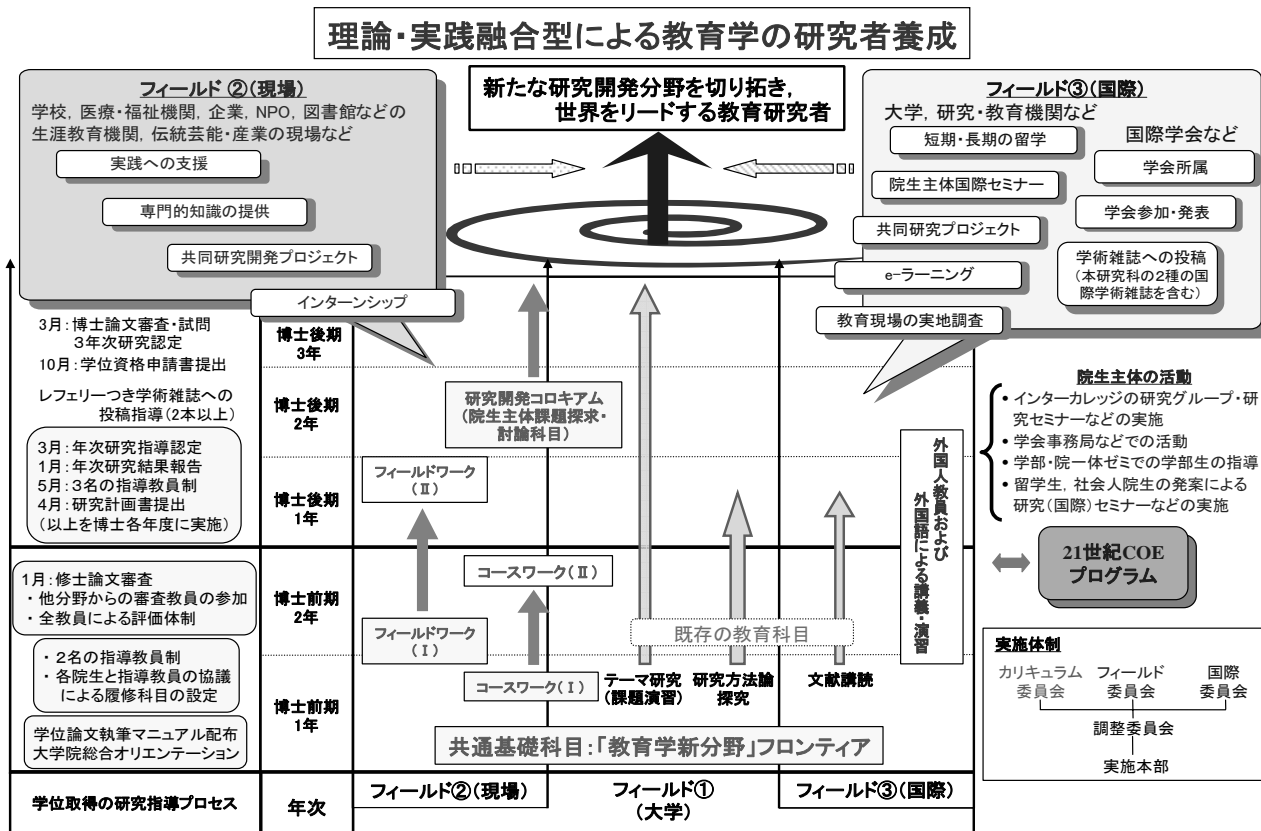


図 2：《履修プロセスの概念図》

3. 教育プログラムの実施状況と成果

(1) 教育プログラムの実施状況と成果

3

4)

カリキュラム委員会

- 1) e-learning
- 2)
- 3)

1)

e-learningシステム

HP

Moodle

4)

Polycom VSX5000

1)

2)

家庭裁判所調査官研修会／学校臨床研究会事例検討会／学生文化研究会／医師と心理の合同シンポジウム／京都死生学研究会／院生主体国際シンポジウム／新教育システム開発プログラム実施委員会など多数。

3)



写真1：烏丸サテライトキャンパス

2)

「教育学新分野フロンティアA」

「教育学新分野フロンティアB」

A 3 2
5

2

20

B

9

21



図3：院生の主催したシンポジウムの例（ポスター）

3

3) 「研究開発コロキウム」

18 1

19

106 1837

2

7

32

137.8

<表1：研究開発コロキウム『成果報告書』一覧>

- (1) 『新たな「フィールド」研究スタイル開拓の試み』（研究代表者：高橋洋一）93p.
- (2) 『近代ナショナリズムと帝国主義の展開と相克をめぐる基礎的研究』（研究代表者：山本和行）165p.

- (3) 『人生と死を現場（フィールド）にしたナラティブ・アプローチの可能性』（研究代表者：川島大輔）206p.
- (4) 『大学と学校の連携による授業改善』（研究代表者：八田幸恵）73p.
- (5) 『子どもの総合的発達支援体制の構築に向けて』（研究代表者：篠原郁子）139p.
- (6) 『実践に基づいたメディア教育に関する研究』（研究代表者：辻高明）36p.
- (7) 『認知とコミュニケーション』（研究代表者：森本裕子）47p.
- (8) 『キャラクターにおける魅力の要因』（研究代表者：石橋遼）87p.
- (9) 『米国カリフォルニア州における生徒の家庭的背景を考慮した教育に関する多角的検討』（研究代表者：古田薫）135p.
- (10) 『価値多様化時代における学習者の主体的判断力育成に関する国際比較研究』（研究代表者：小原優貴）115p.
- (11) 『対話をめぐる繋がりと裂け目』（研究代表者：中村夕衣）112p.
- (12) 『新しい青年世代の生活と意識に関する実証的研究』（研究代表者：太田拓紀）126p.
- (13) 『京都市の生涯学習施設における教育・学習活動の実態』（研究代表者：金智鉉）201p.
- (14) 『聞くこと／読むことをめぐる臨牀的・人間学的な研究スタイルの見直し』（研究代表者：井谷信彦）70p.
- (15) 『糖尿病患者の「生きる」ことの心理臨牀的理解の試み』（研究代表者：荒木浩子）29p.
- (16) 『学校現場における教師と心理臨牀家の専門性』（研究代表者：畑中千紘）47p.
- (17) 『心理臨牀実践における事例検討のあり方に関する研究』（研究代表者：根本真弓）86p.
- (18) 『遺伝科学がもたらす新たな人間観に関する臨牀心理学的研究』（研究代表者：山本喜晴）29p.
- (19) 『小児科領域における心理臨牀の実践と教育に関する研究』（研究代表者：西澤伸太郎）33p.
- (20) 『ジャーナリスト選抜の歴史社会学』（研究代表者：赤上裕幸）25p.
- (21) 『セラピストクライアント関係における語りと贈与』（研究代表者：春木奈美子）36p.

4)

8

「コースワーク」

国際委員会

1) 「院生主体セミナー」

北京師範大学教育学院（北京、2006年6月）「現代の教育を考える」

ベルリン自由大学（ベルリン、2006年7月）
「Mimesis-Poiesis-Performativity 1」

ランカスター大学（ランカスター、2006年10月）
「New Advances in Psychological Science」 &
「Perspectives on Cognitive Development」

シェフィールド大学（京都、2006年12月）「教育研究における理論的・実践的・倫理的地平」

ベルリン自由大学（京都、2007年2月）
「Mimesis-Poiesis-Performativity 2」



写真2：ベルリン自由大学との院生主体セミナーの様子

2007

Mimesis-Poiesis-Performativity (Waxmann Verlag)

2) 国際シンポジウム、国際セミナー



写真3：本研究科主催第2回国際シンポの様子

- 2005年11月6日、京都大学大学院教育学研究科「第2回国際シンポジウム：大学教育の知の彼方へ」
- 2005年11月12日、「京都大学大学院教育学研究科第3回国際シンポジウム：子どもの教育と未来力」
- 2005年12月18日、「京都大学大学院教育学研究科第4回国際シンポジウム：暗黙知と熟達化」
- 2005年12月21日、「北京師範大学来学記念セミナー：中国の大学院教育の現状」
- 2005年12月22日、「王雁先生、姜星海先生を囲む懇談の集い」
- 2006年1月14 - 15日、「国際シンポジウム：心の抑制過程」
- 2006年3月6日、International Seminar on Executive Function, Inhibitory Control and Theory-of Mind
- 2006年6月5 - 6日、「京都大学大学院教育学研究科第5回国際シンポジウム：北京師範大学教育学院学術交流協定締結記念 日中教育学系合同シンポジウム：国際的視野からみた高等教育の現状と課題—中日を中心に」
- 2006年8月29日、International Seminar. Library and

- Women: Formation of their Career
- 2006年8月31日、Kyoto University Symposium: Lifelong Education and Libraries
- 2006年10月19日、「北京師範大学教育学院 張院長・李副院長を囲む集い」
- 2006年11月9日、「京都—ウィーン国際シンポジウム：文化と教育」
- 2006年11月18日、12月5、12日、外国人招聘研究者による大学院生向け連続講演会
- 2007年2月18日、International Workshop between Kyoto University and Free University of Berlin: Risk-management and Culture

3) 海外の大学や研究機関と部局間学術交流協定を締結

- 2006年6月、北京師範大学教育学院
- 2006年10月、英国ランカスター大学心理学部
- 2006年10月、中国中央教育科学研究所

ドイツ・ベルリン自由大学歴史的人間学学際センタ



写真4：学術交流協定締結（中国中央教育科学研究所）

フィールド委員会

- 2
- 1 「フィールド委員会主催セミナー」

1 教員・院生の協同研究グループ

(1)

(2)

(3)

(4)

4

1) 「女性のライフスタイルと教育」

5

8

2) 「学校現場との連携」



写真 5: 「学校現場との連携」の様子

3) 「教育行政の実際」

HP

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/initiative/>

4) 「フィールドを立ち上げる」

2006 3

野殿童仙房生涯学習推進

委員会



図 4: 「野殿・童仙房」広報誌『風と雲の便り』創刊号表紙

4

(2) 社会への情報提供



図 5: イニシアティブ HP

pp.1-54 2007 1

7

総計 28

冊の刊行物を発刊

10
2.3 1.7
1.8 4.2

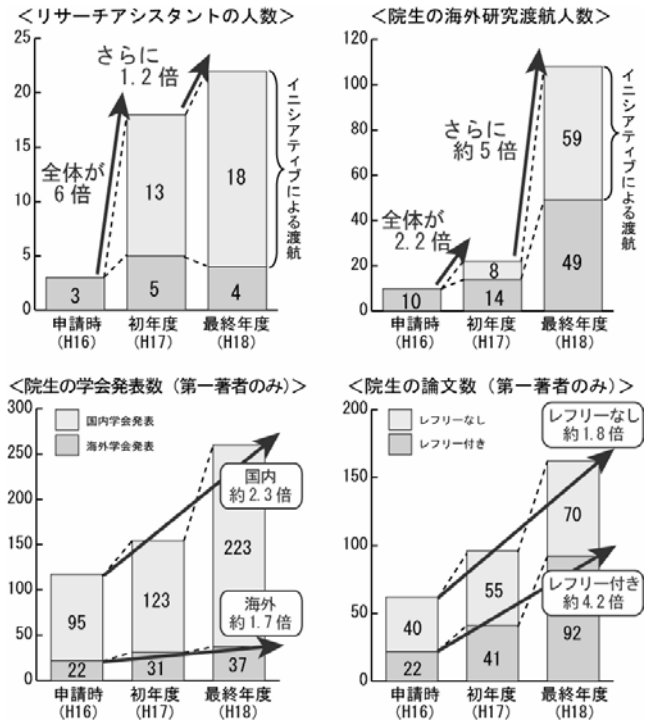


写真6：イニシアティブ『広報』など関連の刊行物

2007 3

pp.1-329

(3) 全体的な評価・成果



4. 将来展望と課題

(1) 今後の課題と改善のための方策

20

2007

one-to-one

(2) 平成19年度以降の実施計画

19

19

10

A

B

19

e-learning

Moodle@

19

19

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会における事後評価結果

<p>【総合評価】</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 目的は十分に達成された <input type="checkbox"/> 目的はほぼ達成された <input type="checkbox"/> 目的はある程度達成された <input type="checkbox"/> 目的は十分には達成されていない </p>
<p>〔実施（達成）状況に関するコメント〕</p> <p>本教育プログラムは、コースワークが研究開発コロキウムという院生のアクティビティに集約される点において注目される。理論と実践の融合を目指して、院生が早い時期にフィールドに身を置き、その過程・現実に対峙するなかで「技・業」を獲得し、その過程を経て研究者に至るといふ、新しい時代の研究者養成の観点を明確にしている点が評価できる。</p> <p>全取組に関する『研究成果報告書』をはじめ、学生の研究成果、事業の経過なども含め、ホームページ、刊行物などを通じて積極的に情報提供がなされている。</p> <p>今後の課題と改善のための方策を整理し、とりわけ本教育プログラムの中心である「研究開発コロキウム」をカリキュラムの中に組み込む方向が志向され、19年度以降も継続して実施する内容が明示されている。資金も配当されており、本教育プログラムの成果の一層の拡大及び引き続いての新たな試みと成果が期待される。</p>
<p>（優れた点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践思考のある教育研究者を養成しようとしている。 ・ 院生の論文発表、論文数の向上などで、国際的なフィールド研究に対するアクティビティを活性化させている。 ・ 研究開発コロキウムを実質化している。 <p>（改善を要する点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ e-learning の内容の充実、教育的成果及び普及については更なる実質化が望まれる。 ・ 専任教員の教育プログラムへの関与の仕方等に関して、一層の明確化が望まれる。 ・ 旧来の学校教育学の「狭隘な人間理解を克服」という課題意識を、本研究科の目的としての「教育の事象をトータルに捉える」こととの連関を明確にすることが望まれる。